



富山県

No.62 2012年1月

中央植物園だより



フクジュソウ

元日草とも呼ばれ、温室で促成栽培されたものが松竹梅の鉢植えに植え込まれ、正月に飾られます。実際に野山でフクジュソウの花が見られるのは、春めく3月になってからです。

「春一番」 撮影／浅野 実さん（第14回私の植物写真展応募作品）

蘭まつり大会



富山県中央植物園では、毎年3月上旬に富山県蘭協会との共催により「富山県蘭まつり大会」を開催していますが、40回目を迎える今年度は富山県蘭協会の創立40年を記念して「蘭まつり北陸大会」として3月2日(金)～4日(日)に開催します。北陸の蘭愛好家が丹精を込めて育てたランの展示のほか、特別展として「香りのラン」を展示します。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

干支の植物展

「去りゆく 卯（ウサギ）、来る 辰（タツ）」

平成24年は辰年です。そこで、竜（龍）やドラゴンにちなんだ名前をもつ植物を見てみましょう。

リュウビンタイは暖地の湿った森林に生える大型のシダです。葉柄の基部にある托葉（たくよう）が太い根茎に残存してうろこ状に



リュウビンタイ（ラン温室）

なることから、「竜鱗（りゅうりん）たい」がなまってリュウビンタイとなったといわれています。

リュウゼツラン（竜舌蘭）はメキシコ原産の巨大な多肉植物で、長さ2m以上にもなる多肉質の葉には先端と縁に硬いトゲがあり、これを竜の舌に見立ててこの名がつけられました。

カナリア諸島原産のリュウケツジュ（竜血樹）は幹を傷つけると赤い樹脂が出てきますが、これは「ドラゴンズ・ブラッド」（竜の血）と呼ばれます。観葉植物のドラセナの仲間、属名の *Dracaena* も竜を意味するギリシア語に由来します。

シソ科のムシャリンドウの仲間は、花を竜の頭に見立てて、英語でドラゴン・ヘッドと呼ばれます。また、キンギョソウには中国では龍頭花、英語ではスナップ・ドラゴンという呼び名があります。このほか、リュウガン（竜眼）、リュウノヒゲ、タツノヒゲ、コンテリクラマゴケ（中国名：龍須）、ヒガンバナ（中国名：龍爪花）、ウンリュウヤナギ（中国名：龍爪柳）など、竜に因ん



ムシャリンドウ（海岸植物エリア）

だ名をもつ植物はいろいろあります。

中央植物園では、12月26日から1月25日まで、サンライトホールで「干支にちなんだ植物展」を開催します。竜にちなむ植物を中心に、実物とパネルで展示・紹介します。

中央植物園のこんなところ紹介 閲覧室

植物園の管理研修棟に入ると、植物園管理室までの間に閲覧室があります。室名のプレートもありますが、植物園に来られた方なら、植物が並びソファや机、植物関係の本が置いてある部屋と言うとすぐわかると思います。この部屋では植物に関する調べ物もすぐできるので、夏休みの後半には自由研究のまとめにも利用されますし、植物やきのこの質問回答も行われています。

この閲覧室には日本で芸術としての植物画を確立された二口善雄先生の遺品が展示されています。二口先生は1700点余りの作品を中央植物園に寄贈されました。この部屋には二口先生の描かれた植物画やお使いになられていたパレット、筆、さらに先生の植物画を元に製作された本なども展示されています。

また壁面のマガジンラックには植物や園芸関係の最新雑誌が置いてありますので、ご自由に利用ください。



閲覧室に展示された二口先生の植物画と遺品

植物園の植物紹介3

温室の植物



見られる場所：熱帯雨林植物室 温室課 志内利明

ドンベヤ・ワリッキー

ドンベヤ・ワリッキー (*Dombeya wallichii* (Lindl.) Benth. & Hook.) は、アオギリ科ドンベヤ属の植物で、アフリカ東部、マダガスカル諸島原産の常緑の低木です。3cmほどのピンク色の花がたくさん集まって半球状を形作り、垂れ下がります。花は甘い香りを放ちますので、香りでも楽しめます。離れたところから見るとピンク色のアジサイが逆さまにぶら下がっているように見えるため、英名を「熱帯のアジサイ (Tropical Hydrangea)」と呼び、他にも「ピンクボール (Pink ball)」とも呼ばれるようです。

植物園には樹高3mほどのものがあり、例年見ごろとなるのがお正月前後です。年末年始の休園日を選んでご来園下さい。

研究紹介◎『富山県のササ属：多変量解析による識別の試み』

主任 高橋 一臣

ササ属(*Sasa*)は日本の温帯に広く分布しますが、日本海側と太平洋側では異なった種類のササが生育しています。日本海側にはチシマザサ節(せつ)とチマキザサ節、太平洋側にはミヤコザサ節とアマギザサ節の種が分布します。ここで、節というのは属と種の間には置かれる分類階級を意味します。

さて、ササ属の節レベルの分類には、稈(かん：イネ科植物の茎)の枝分かれのパターンが重視されます。しかし、分枝パターンは客観的な判定が難しく、特に、枝を出していない当年生の稈の標本では節レベルの同定が難しいことがあります。そこで私は、当年生の稈の標本を使って、稈や稈鞘(竹の皮)、葉などの栄養器官に関する10形質を計測し、多変量解析で節の識別を行うことを試んでいます。

図1は、富山県産のササ属について正準判別分析という方法で識別を試みた結果を示しています。比較のために、岐阜県のアマギザサ節も解析に加えています。まず、県東部のチマキザサ節(濃緑)と、チシマザサ節のチシマザサ(濃青)、岐阜県のアマギザサ節(オレンジ)の3つのグループが明確に識別されました。さらに、岐阜県境付近の山地に生育するササ(赤)が岐阜県のアマギザサ節と重なる領域にプロットされました。このササが伊豆半島など太平洋岸のアマギザサ節と本当に同じであるかについては検討が必要ですが、飛騨地方などでアマギザサ節とされているものと類似した形態のササが、富山県にも分布していることが明らかになりました。

一方、富山県内の里山林を調査した県森林研究所の長谷川幹夫博士によると、林床にチマキザサ節が

優占する“ササ型林床”をもつコナラ林は、富山県では西部に偏って分布することがわかっています。この県西部に生育するチマキザサ節(黄緑)は、東部のものに比べてアマギザサ節の方向にずれた位置にプロットされました。そのため、チマキザサ節とアマギザサ節が一つにつながってしまいました。なお、チシマザサ節のうちオクヤマザサ類(薄青)が、チシマザサとチマキザサ+アマギザサ節をつなぐ位置にプロットされていますが、これはチシマザサを片親とする雑種と推定されているササです。

日本海側に位置する富山県には、当初、チマキザサ節とチシマザサ、およびそれらの雑種が出現すると考えていました。しかし、太平洋側のアマギザサ節に似たササが見つかったり、アマギザサ節とチマキザサ節をつなぐ集団が存在するなど、もう少し複雑な様相を示すことがわかってきました。

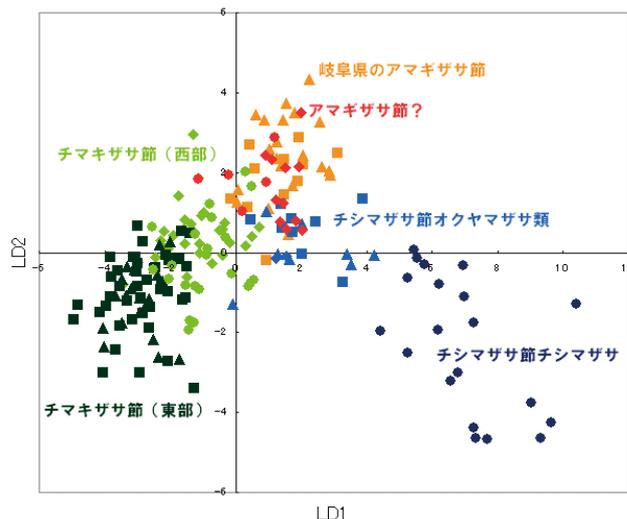


図1. 栄養器官の10形質による富山県産ササ属の正準判別分析



魯元学先生の講演風景

植物園 トピックス 1

■日中友好交流の成果

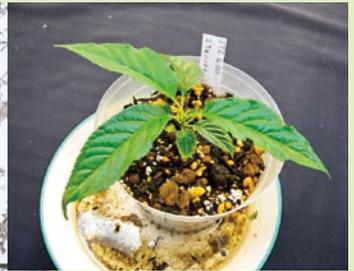
日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「東アジアにおける有用植物遺伝資源研究拠点の構築」(岡山大学)との共催により、中国科学院昆明植物研究所の魯元学先生を招いて、講演会「雲南省から来た植物たち」を10月16日(日)に開催しました。

魯元学先生は「中国雲南省の植物とその利用」と題して、神戸敏成主任研究員は「富山県中央植物園で見られる雲南省の植物」と題して、それぞれ中国雲南省の自然や植物の魅力や富山県中央植物園が昆明植物研究所と行ってきた10年間にわたる共同研究などについて紹介しました。

植物園 トピックス 2

■世界に一つしかないサクラ

富山県中央植物園とサクラの増殖に関する共同研究を行っている富山県立中央農業高校の生物工学コースの生徒の皆さんがジョウキョウジテマリザクラのバイオテクノロジーを用いた増殖に成功し、各マスコミにより紹介されました。ジョウキョウジテマリザクラは花卉が100枚以上ある菊咲性のサクラで、現在世界に一本しかない貴重なサクラです。この成果は来春の日本園芸学会で発表する予定です。



ジョウキョウジテマリザクラの様子と、バイオテクノロジーで増殖した苗

催し物のご案内

■企画展示 サンライトホール

企画展には入園料が必要です。

「干支にちなんだ植物展」

12月26日(月)～1月25日(水)

「23年度研究発表展」

1月27日(金)～2月29日(水)

「盆栽展」

2月24日(金)～26日(日)

「蘭まつり北陸大会」

3月2日(金)～4日(日)

「富山で見つけたサクラ」

3月9日(金)～

■講座・講習会

23年度研究発表会

1月29日(日) 13:00～16:00

★栽培講習会④

「ランの栽培と管理」

3月3日(土) 10:30～12:00

3月4日(日) 13:30～15:00

■月例行事

緑のコンサート

3月10日(土) 14:00～15:00

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要です

日曜植物案内

1月8日(日)、2月5日(日)、

3月4日(日) 13:30～14:30

集合場所/サンライトホール

参加費/入園料が必要です

★印は植物園ボランティアの養成講座です



富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日(4月中と祝日の場合は開園)、年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 600円
団体料金(20名以上) 480円
高校生以下無料
冬季入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 400円
団体料金(20名以上) 320円
高校生以下無料

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ経由萩の島循環」または「ファボーレ経由流星行き(休日のみ)」に乗り「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分/富山市中心部より車で約15分/北陸自動車道富山インターより車で約15分/JR流星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.62

編集・発行/富山県中央植物園(指定管理者:財団法人 花と緑の銀行)
〒939-2713 富山市婦中町上善田42 TEL 076-466-4187 <http://www.bgtym.org/>
平成23年12月20日発行 印刷/中村印刷工業株式会社